

秋経協・二水会 第103回 例会

開催日・令和3年12月8日(水) 会場・アルバートホテル 参加者16名

特別講演 『渋沢栄一が訪れた秋田県』

講師：秋田銀行 経営企画部 武田 大 氏



第103回例会が12月8日(水)16:00よりアルバートホテルで開催された。12月例会は、講演を労務関係以外のテーマで開催しており、今回は大河ドラマ「青天を衝け」の主人公渋沢栄一と秋田県との関係を中心に「渋沢栄一が訪れた秋田県」をテーマに渋沢栄一の秋田県における業績を調査している秋田銀行経営企画部 武田大氏を招き、開催した。

講演に先立ち、中田代表幹事から例会日が12月8日であることから昭和16年12月8日太平洋戦争に突入した当時の魁新聞の記事を1週間に亘り紹介しながら開会の挨拶を行った。挨拶の中で、「紙面が戦争一面で埋め尽くされておらず、一番の関心事は「鮎」。12月10日季節鮎が接岸、12日男鹿の鮎対応を、17日大漁から1箱1円値下げと輸送体制を詳細に紹介している。80年たった今年の初漁より遅かったようであるが、秋田県民にとって「鮎」は特別な存在だったと理解できる。このような秋田県を渋沢栄一はどのように見ていたのか、大河ドラマには登場しない秋田での行動を武田氏より学びたいと参加した会員一同の関心は高く、楽しく拝聴したい。」と述べた。

講演は、明治15年(1882年)秋田県を初めて訪れた時(5月)の印象とその際に面接した人物を紹介しながら秋田銀行との関りについても解説。明治15年は栄一の妻「千代」がなくなった年(7月)であり、千代のことは大河ドラマでは取り上げたが、第一銀行頭取としての活躍は紹介されていない。来県の際、面談した経済人は8名もおり、栄一の積極的な行動を垣間見ることができた。例会は、令和3年締めくくりにふさわしい時間となった。

講演終了後、今年最後の例会ということで会場をホテル内「はなぎく」において情報交換を行い、懇親を深めた。 【文責 事務局】



中田代表幹事 開会挨拶



講師 武田 大(たけだ だい)氏
1954年 八郎潟町生まれ。78年秋田銀行入行 現在、秋田銀行経営企画部在籍。



情報交換会 広島代表幹事の挨拶乾杯で始まる。締めは、一本絞めで佐藤前代表幹事。